県立広島病院広報誌
もみじ
第48号
2013.2.1
発行

県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

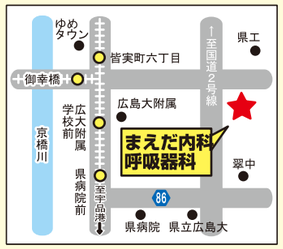
連携医院のご紹介

今回は、「安心・安全な医療」を大切にしておられます、まえだ内科呼吸器科の前田晃宏院長先生です。

前田先生

まえだ内科呼吸器科

〒734-0005
広島市南区翠3-6-4
翠町メディカルビル2F
電　話／082-254-3366
院　長／前田　晃宏
診療科／内科・呼吸器科・アレルギー科



○いつ頃開業されましたか。また、開業以来、特に力を入れて取り組んでいることはありますか。

平成17年の5月に開業しました。私は開業以来、休憩時間や診療時間終了後など、時間が少しでもあれば患者さんのカルテを見返し、診療方針の検討・見直しなど、次の診療に備えることを心がけてきました。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

とにかく笑顔で、患者さんの話をしっかりと聞くことです。医師は患者さんの手助けをする役割だと考えています。また、初診の患者さんについてはできる限り早期に診断をつけ、何が病状の本質なのか、原因を突き止めることを心がけております。そして、慢性疾患であれば先をみないといけないので、患者さんのQOLを考えて、できる限り最小限の薬や治療で合併症を防ぐように努力しております。原因追求は「とにかく早く！」ですね。診断が遅れて患者さんの状態が悪くなるよりも、精査の結果「何もなかった」くらいの方が患者さんにとっては良いのではないかと思っています。

○開業医としてやりがいを感じるところはどんなところですか。

私は患者さんの話を聞くこと、特にお年寄りの話を聞くことが好きなんです。話の中には長寿の秘訣や効果のあった治療法の話など“タメ”になる内容がたくさんありますからね。こうしてできた患者さんとの近くて良い関係が、患者さんの「安心・安全な医療」につながれば幸いですね。

○県病院について、ひとことお願いします。

当院で評価できない病状の場合は「とにかく早く原因精査を」といつもお願いし、対応していただいております。これまでどおりの連携をお願いいたします。

まえだ内科呼吸器科外観

【取材後記】

取材中も、常に笑顔の絶えない前田先生。先生にいろいろな話をされる患者さんの気持ちがとてもよく感じられた取材でした。

県立広島病院からのお知らせ

2月のがんサロン

とき 平成25年2月19日(火) 14:00～15:30
ところ 新東棟2階 総合研修室
内容 学習会・交流会
対象 悪性腫瘍（がん）で通院 または 入院されている患者様及び そのご家族の方
問合せ先 地域連携科 TEL:082-256-3562（直通）

がん医療従事者研修会

とき 平成25年2月28日(木) 19:00～20:30
ところ 中央棟2階　講堂
テーマ 緩和ケアチームの取り組み
講師 緩和ケア科部長　小原　弘之、臨床腫瘍科看護師　原垣内　里奈、薬剤師　笠原　庸子
対象 医療従事者 及び その関係者
問合せ先 総務課管理係（担当:藤原） TEL:082-254-1818 内線（4273）

リーフレットを置いてます!

県立病院では、お役立ち医療情報を掲載したリーフレットを作成しました。2月初旬より、県内のコンビニ（セブンイレブン、ローソン、ファミリーマーケット）などのラックに置かれます。ラックには、「県民だより」などの県政情報チラシもあります。是非、御覧下さい。

御礼

平成25年1月11日（金）に広島市南区医師会共催で『第1回広島在宅緩和ケア事例検討会』を開催しました。当日は120名を超える地域の方々のご参加をいただきました。誠にありがとうございました。

外来診療のご案内

診察受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始（12月29日～1月3日）

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか 2,620 円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。
予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承ください。

脳卒中予防のために

―寒い季節に注意したいこと―

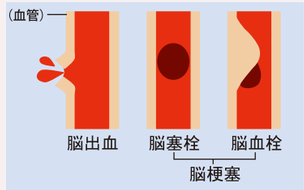
院長撮影

脳神経内科部長
仲　博満

脳卒中の発症に季節は関係するのでしょうか？

脳卒中には、血管が詰まるタイプ（脳梗塞）と血管が破れるタイプ（脳出血やくも膜下出血）がありますが、そのうち脳出血は寒い季節に発症しやすいことが分かっています。

また、一日の中でも脳卒中は朝方から午前中に発症しやすく、この理由として自律神経（交感神経、副交感神経）の関与が考えられています。就寝中は副交感神経が活発で血圧や脈拍は低下します。ところが目覚めると交感神経が活発になり血圧が高くなります。急に血圧が高くなることで脳血管に負担がかかり血管が破たんし脳出血に至ってしまうのです。



寒いこの季節、脳卒中予防には何に注意すればよいのでしょうか？

①朝起きて暖かい布団から出る時

寒い室内との温度差に注意が必要です。寒い季節は部屋の中を暖かくしてお休みください。

②散歩を日課にしている方

（脳卒中予防には適度な運動が勧められています）

朝の散歩は屋内外で温度差があり負担が大きくなります。寒い日や時間帯は外出を控え、外出の際は暖かい格好を心掛けてください。

③トイレなどに行く時

居間とトイレや廊下との寒暖の差に気を付けてください（一枚羽織ってトイレに行かれてはどうでしょう）。そして排便の際にあまり力まないように（血圧が急に上がってしまいます）。

④お風呂に入る時

入浴にも注意してください。脱衣所を暖かくし、いきなり熱い風呂に入らないように。

枕草子で讃えられる「冬はつとめて（早朝）」は、脳出血をおこしやすい季節であり時間帯でもあります。くれぐれもご自愛ください。

診療科だより 第23回 小児腎臓科

腎臓病で悩む子どもと家族をゼロにするために

今回は、小児腎臓科の大田主任部長です！！

■広島の小児医療の中での位置づけ

小児腎臓科主任部長
大田　敏之

私ども小児腎臓科は、小児の腎疾患を中心に診療する科です。私の知る限り、わが国で小児腎臓科を名乗っているのは、私たちを含めて2病院のみです。私どもの診療科が小児科から独立した経緯は、広島市、広島県にこども病院がないことに起因します。子ども病院がないために、広島市内にある比較的大きな病院の中で、各小児科はそれぞれの得意分野を持って診療にあたっています。たとえば、血液腫瘍部門は広島大学病院、内分泌と血液腫瘍部門は広島赤十字病院、神経・循環器・新生児部門は広島市民病院、救急疾患は広島市立舟入病院が得意分野としております。当院はその中で、新生児部門は言うに及ばず、感染症、神経代謝疾患、外科、耳鼻咽喉科、眼科などの専門医がおり、広い分野の小児診療を担当しておりますが、腎疾患に関しては一手に引き受けております。そのようなことを前面に出そうとの考えで、独立した診療科となりました。

■当科の診療範囲

生まれる前に発見された腎尿路障害、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全、慢性腎不全、腎移植後など広範囲にわたっております。その他、重い感染症や代謝病などで血液をきれいにすることが必要な子どもの治療にもかかわります。この中で腎移植に関しては、体重の小さな子ども、排尿などに関わる下部尿路障害を有する子どもは中央の医療機関にお願いしております。

■当科の診療姿勢について

地方にありながら、全国レベルの診療を実践することです。ただ、それは腎尿路障害であれば小児外科の、腎移植であれば透析移植外科の、血液浄化療法が必要であれば救急科や臨床工学科の協力を得ながら行なっており、横のつながりがスムーズである当院だからこそできることです。成育医療センターの一部門として、皆様の、そしてお子様の健康維持の一助となるように励む所存ですので、今後もよろしくお願い致します。

小児科(関連)の医師スタッフの皆さんです

病棟編 看護部だより

腎臓総合医療センター

腎臓総合医療センターの歴史は、昭和60年4月に当院が人工腎臓センターを設置したことに始まります。平成8年に腎臓総合医療センターに改組され、透析室では血液透析、特殊浄化（血漿交換、免疫吸着など）を行っています。透析患者さんは年々増えており、全国で30万人を超え、毎年1万人増えている状況です。中でも糖尿病性腎症から透析が開始される患者さんは全体の44.2%にのぼります。

当院での平成24年の年間延べ透析件数は約10,400件でした。透析は通常、週3回程度の通院で1回の治療に4時間程度を要します。動脈と静脈をつなぎ合わせて静脈に多くの血液が流れるようにする内シャントを使用し、シャントに刺した針から血液を体の外に取り出し体にたまった余分な水分や老廃物をダイアライザーと呼ばれる透析機を通して血液を浄化します。きれいになった血液は再び体内にもどします。治療中はテレビを見たり、読書をして過ごされる方が多いですが、週3回の透析で通院される患者さんに少しでも和んでいただきたいと壁に貼り絵をしたり、クリスマスカードをお渡ししたりしています。高度な技術や知識を要求されるためベテランのスタッフが多いのも透析室の特徴です。

ベテランスタッフが多いのが特徴です

外科医の独り言 no.17

― 快適な睡眠 ―

医者の不養生という諺があります。これに関して私は全く言い訳をするつもりはありません。この諺は、患者に養生を勧める医者が、自分自身は健康に注意しないこと。転じて、正しいとわかっていながら、実行が伴わないことを意味しています。同じような諺に「坊主の不信心」というのがあります。諺になるくらいなので自分もその通り、と思っているのは私だけではありません。医師を対象にしたアンケート調査で、自分は不健康と思っている医師が2割いたそうです。また健康診断では、4割以上が脂質異常症（いわゆるメタボ）や肥満を指摘されており、何も異常がなかったのはわずか3割だったそうです。確かに太った医者に痩せろと言われたら、「お前が痩せろ」と突っ込まれて全く説得力がありません。

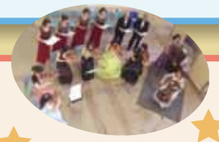
健康は、食事、睡眠、運動で決まります。三度三度の食事をきっちり摂って、ぐっすり寝て、毎日適度な運動をすれば、間違いなく精神的にも肉体的にも健康は維持できます。私は、さすがに50歳を過ぎたころから体がしんどくなり、食事療法というかカロリー制限をして約8kg減量しました。カロリー制限といっても、飲んだらラーメン、お好み焼きを食べるな、ということを実行しただけです。最近は、妻が気を使ってくれて弁当を持参していますが、それも手術が長引けば昼食抜き、弁当を食べずに帰るわけにはいかないので5時頃に食べて、家に帰ったらまた晩御飯と、いまだに規則正しい食生活というわけにはいきません。運動といっても家に帰ってウオーキングなんかする気にはなりません。しかし、さすがにこの年になると夜中に病院から電話で起こされることも少なくなり、最近は良質な睡眠が取れているような気がします。元々寝つきには自信があり、会議中に居眠りすることがよくあります。居眠りは馬鹿にできませんよ。10～15分居眠りするだけで、頭がすっきりしますから我慢して効率の悪い仕事をするより余程迷惑をかけないと思いますが。ただ時と場所と頻度に気を付けなければなりません。私の後輩外科医に、私をはるかにしのぐ寝つきの良い奴がいます。とにかくいつでもどこでも隙があれば即座に居眠りします。ある時彼は教授室に呼ばれて説教されていました。そこで彼は不覚にも教授が唾を飛ばして説教している最中に居眠りをしてしまったのです。もちろん教授はさらに激怒しましたが、最後には教授に「頼むから人が説教をしている時だけは寝ないでくれ」と懇願されたそうです。

最近寒さが厳しくなってきたので、白猫の“ねこちゃん”を湯たんぽ代わりに布団の中に入れて寝るようになりました。ごろごろと喉を鳴らしてうるさいのですが、その暖かさは期待通り快適な睡眠を与えてくれます。ただここ2,3日、家がつぶれて下敷きになってもがき苦しんでいる夢で目が覚め、快適な睡眠とは程遠いものでした。悪夢の原因は、腕の中で寝ていたはずが、いつの間にか私の腹の上に登って快適な睡眠をとっていた推定体重7kgのメタボの“ねこちゃん”でした。

副院長（消化器・乳腺・移植外科主任部長）
板本敏行（いたもと　としゆき）

クリスマスコンサート

会場はクリスマスモードに浸りました



ハレルヤの歌声が響きます

昨年の12月25日（火）午後2時30分から中央棟１階の正面玄関ロビーにおいて、恒例の『クリスマスコンサート』を開催しました。プロメテウスアンサンブルの皆様による演奏と、今回初参加のクローバーの会の皆様の歌声に、会場に集まって頂いた患者さんや、ご家族に大変喜んで頂きました。病室には院内テレビを通じて配信し、会場に来られない患者さんにも雰囲気を味わっていただきました。